



6 5



5) プテラノドンの赤ちゃんが誕生。両親の厳しくも温かい愛情を受け、健やかに成長していく 6) 凶暴なティラノサウルスが間近に迫ってくるシーンを迫真のダンスで表現 7) 感動にあふれたカーテンコールでは、大きな大きな拍手がいつまでも続いていた。後日、主催者のもとには絶賛の声や継続を望む声がいっつも届けられた



7

に子どもたちは物語の中に入り込んでいく。やがて子どもの方から「ここはどうしたらいい」「もう一度教えて」と、積極的な意見が出るようになり、一体感が育まれていった。

ティラノサウルス役の御前崎中学校3年寺田詩織さんが「役の雰囲気全体で表現するために、何度も何度も練習しました。周りのみんなが支えてくれたから、いい演技ができるようになりまし」と語るように、一人一人が協力し、高め合うことで、ミュージカルは一つの形を成していった。

会場全体を包んだ一体感

11月16日、青少年健全育成総決起大会当日。会場に詰め掛けた700人の観客が見守る中、ミュージカルの幕は上がった。

本番前、緊張と不安で押しつぶされそうな顔をしていた子どもたち。だが、いざ出番になると、みんな元気にステージへ飛び出して行った。

プテラノドンの子が両親から巣立っていくシーン、けがをした凶暴なティラノサウルスを必死に看病するシーンなど、ハラハラドキドキの展開に観客席からため息が漏れる。

劇のクライマックス。プテラノドンの子とティラノサウルスの思いが



出演者・スタッフ全員が築き上げた一体感や信頼関係は、舞台が終わっても色あせることはない

すれ違うシーンでは、目を潤ませながら舞台を見つめる観客もいた。

裏方として支えたスタッフの一人、鈴木宏恵さんが「舞台の最後、会場から沸き起こる拍手に感動し、胸がいっぱいになり、涙をこらえるのに必死でした」と語ったように、その時、間違いなく舞台と観客席が一体となっていた。子どもたちの思いが観客に届いていた。御前崎市が誇る市民ミュージカルが誕生した瞬間だった。

もう一度ステージを夢見て

舞台終了後、子どもたちは一様に「これで終わってしまうのは寂しい。新しい友達もできたし、みんなで協力し合えてすごく楽しかった」と口をそろえた。

「またみんなでミュージカルをやりたいです」と、語った子の瞳がキラキラと輝いてまぶしかった。